

畜産

実 況

1 平成 26 年度第 24 回石川・福井合同肉牛枝肉販売会（平成 27 年 3 月 9 日）

		頭数	単価 (円)	販売価格 (円)	BMS (No.)	枝肉重量 (kg)	ロース芯 面積 (cm ²)	上物率 (%)
去勢	福井 全体	14	2,284	1,087,008	7.1	475.8	59.9	93
		32	2,531	1,191,615	6.9	471.5	60.2	84
雌	福井 全体	11	2,176	973,059	6.6	446.1	65.4	73
		18	2,310	1,016,698	6.1	440.3	60.7	67

最高価格は、1,523,499 円、去勢牛(福華 1×茂勝栄×北国 7 の 8)、29.9 カ月齢、A-4(BMSNo5)、枝肉重量 567.2 kg、ロース芯面積 73 cm²であり、福島県産であった。枝肉単価は、前回より、去勢で 136 円高く、雌で 2 円高かった。

2 平成 26 年度第 25 回石川・福井合同肉牛枝肉販売会（平成 27 年 3 月 23 日）

		頭数	単価 (円)	販売価格 (円)	BMS (No.)	枝肉重量 (kg)	ロース芯 面積 (cm ²)	上物率 (%)
去勢	福井 全体	19	2,159	1,007,340	6.8	464.6	59.4	95
		39	2,348	1,102,664	6.7	467.8	57.2	87
雌	福井 全体	9	2,021	865,535	5.3	431.8	55.8	33
		18	2,154	876,094	5.4	408.7	53.7	39

最高価格は、1,472,439 円、去勢牛(忠富士×安平×福桜(宮崎))、28.5 カ月齢、A-5(BMSNo8)、枝肉重量 554.8 kg、ロース芯面積 52 cm²であり、宮崎県産であった。枝肉単価は前回より、去勢で 183 円安く、雌で 156 円安かった。

対 策

1 飼料作物

(1) 寒地型牧草の早春肥培管理について

いよいよ 3 月になり、自給飼料生産の準備に取り掛かる時期になる。

トラクターや作業機等の機械整備は冬期の間に実施し、これからは、ほ場の生産準備に移るように心がける

(2) 今年の生産を高める施肥

牧草が必要とする時期に、養分を必要量吸収させることが必要である。牧草は、春の伸長期にもっとも多く成長し、夏以降は秋に向かって少しずつ減少する。従って、採草利用の場合、生産量も 1 番草の時期が多く年間収量の半分を占め、2、3 番草と順次減少していく。

年間 3 回刈りの場合、年間施肥量は早春の追肥で全体の 6 分の 3、1 番草後に 6 分の 2、2 番草後に 6 分の 1 と 3 : 2 : 1 の割合を心がける。

放牧利用の場合、早春の再生草は、いわゆる“スプリングフラッシュ”となり、1 日当たりの生産量は最高となる。

施肥は牧草生長を促すため早期に実施する。リン酸は低温で高い肥効を示すので年間施用量の全量を施肥し、窒素と加里は年間施用量の 3 分の 1 以下に調整する。

また再生草の有効な利用法として、①牧草が伸びすぎないように頻繁に転牧する、②早春施肥を省略する、③早期放牧により伸長茎を抑制するなどが有効である。